

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : 2-エチルヘキシルアルコール

SDS コード : P1-02

供給者の会社名称 :

林 純薬工業株式会社

住所 : 大阪府大阪市中央区内平野町 3 丁目 2 番 12 号

担当部門 : 試薬化成部品 企画グループ

電話番号 : 06-6910-7305

E-mail : shiyaku_kikaku@hpc-j.co.jp

URL : <https://www.hpc-j.co.jp/>

緊急連絡電話番号 : 06-6910-7305

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理的危険性	鈍性化爆発物	分類できない	
	爆発物	区分に該当しない	
	可燃性ガス	区分に該当しない	
	エアゾール	区分に該当しない	
	酸化性ガス	区分に該当しない	
	高圧ガス	区分に該当しない	
	引火性液体	区分 4	
	可燃性固体	区分に該当しない	
	自己反応性化学品	区分に該当しない	
	自然発火性液体	区分に該当しない	
	自然発火性固体	区分に該当しない	
	自己発熱性化学品	分類できない	
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない	
	酸化性液体	区分に該当しない	
	酸化性固体	区分に該当しない	
	有機過酸化物	区分に該当しない	
	金属腐食性化学品	分類できない	
	健康有害性	急性毒性 (経口)	区分に該当しない
		急性毒性 (経皮)	区分に該当しない
		急性毒性 (吸入: 気体)	区分に該当しない
急性毒性 (吸入: 蒸気)		分類できない	
急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)		分類できない	
皮膚腐食性/刺激性		区分 2	
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性		区分 2A	
呼吸器感作性		分類できない	
皮膚感作性		分類できない	
生殖細胞変異原性		分類できない	
発がん性		分類できない	
生殖毒性	区分 2		
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 2 (呼吸器系)		

環境有害性	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 3 (麻酔作用)
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	分類できない
	誤えん有害性	分類できない
	水生環境有害性 短期(急性)	区分 2
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分に該当しない
	オゾン層への有害性	分類できない

絵表示
(GHS JP)



GHS07



GHS08

注意喚起語 (GHS JP)

: 警告

危険有害性 (GHS JP)

: 可燃性液体 (H227)
皮膚刺激 (H315)
強い眼刺激 (H319)
眠気又はめまいのおそれ (H336)
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い (H361)
臓器の障害のおそれ (呼吸器系) (H371)
水生生物に毒性 (H401)

注意書き (GHS JP)

安全対策

: 使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。(P210)
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。(P260)
取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。(P264)
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。(P271)
環境への放出を避けること。(P273)
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)

応急措置

: 皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。(P302+P352)
吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。(P308+P311)
気分が悪いときは医師に連絡すること。(P312)
皮膚刺激が生じた場合: 医師の診察／手当てを受けること。(P332+P313)
眼の刺激が続く場合: 医師の診察／手当てを受けること。(P337+P313)
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P362+P364)
火災の場合: 消火するために適切な消火剤を使用すること。(P370+P378)

保管

: 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233)
施錠して保管すること。(P405)

廃棄

: 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

- 化学物質・混合物の区別 : 化学物質
別名 : オクタノール、2-エチル-1-ヘキサノール

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法番号	安衛法番号	
2-エチルヘキシルアルコール	≥99.0%	C8H18O	(2)-217	既存化学物質	104-76-7

上記濃度又は濃度範囲は、規格値ではありません。

上記濃度又は濃度範囲に記載の%は、個別表記があるものを除き、全て質量%となります。

4. 応急措置

応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。
多量の水と石鹼で優しく洗うこと。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 眼に入った場合 : 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用してい
て容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 無理に吐かせないこと。
口をすすぐこと。
直ちに医師に診断／手当てを受けること。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 周辺火災に応じて、適切な消火剤を使用する、水噴霧、二酸化炭素、乾燥粉末消
火剤、砂
- 使ってはならない消火剤 : 強い水流は使用しない。
- 火災時の危険有害性分解生成物 : 火災時に刺激性もしくは有毒なフュームまたはガスを発生する。
- 消火方法 : 着火した場合、初期消火は、火元(燃焼源)を断ち、適切な消火剤を用いて一挙に
消火する。
周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。
移動不可能な場合、容器及び周囲の設備等に散水し、冷却する。
- 消火時の保護具 : 消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- 一般的措置 : 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。
関係者以外の立ち入りを禁止する。
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
作業の際には、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、必ず適切な
保護具を着用し、風下で作業行わない。

環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項 : 環境への放出を避けること。
下水道や公共用水域への侵入を防ぐ。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 浄化方法 : 漏出は、吸収剤を使用してできるだけ素早く回収する。
できるだけ液体漏出物は密閉容器に回収する。
回収跡は多量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用して作業する。

漏れ、あふれ、飛散しないように取扱い、ミスト、蒸気の発生を少なくし、換気を十分にする。

安全取扱注意事項 : この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗いうがいをする。

作業所の十分な換気を確保する。

接触、吸入又は飲み込まないこと。

接触回避 : 長時間または反復の暴露を避ける。

保管

安全な保管条件 : 施錠して保管すること。

直射日光を避け、換気の良い場所に保管する。容器を密閉し、火気、熱源より遠ざける。

安全な容器包装材料 : 遮光した気密容器。

技術的対策 : 適用法令を遵守する。

保管温度 : 冷暗所保管

8. ばく露防止及び保護措置

ばく露限界値	
2-エチルヘキシルアルコール	
許容濃度(産衛学会)	1ppm(5.3mg/m ³)

設備対策 : 取扱場所での発生源の密閉化、または局所排気装置、全体換気装置の設置。取扱い場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

保護具

皮膚及び身体の保護具 : 不浸透性前掛け、不浸透性作業衣、保護長靴

眼の保護具 : 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)

手の保護具 : 不浸透性保護手袋

呼吸用保護具 : 有機ガス用防毒マスク

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体
外観	: 液体
色	: 無色透明
臭い	: わずかな芳香臭
pH	: データなし
融点	: データなし
凝固点	: データなし
沸点	: 184 - 185 ° C
引火点	: 75 ° C (タグ密閉式)
自然発火点	: 231 ° C
分解温度	: データなし
可燃性	: データなし
蒸気圧	: 0.136 mm Hg (25°C)
相対密度	: データなし
密度	: 0.83 g/cm ³ (20°C)
相対ガス密度	: 4.49 (空気=1)

溶解度	: 多くの有機溶剤に可溶。 水: 0.1% (in water)、2.6% (water in) (20°C)
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	: 2.3
爆発限界 (vol %)	: 1.1 - 12.7 vol %
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: データなし
化学的安定性	: 通常取り扱い条件では安定である。吸湿性がある。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤と激しく反応する。
避けるべき条件	: 日光、熱、火花、裸火、静電気等の発火源。強酸化剤との接触。
混触危険物質	: 強酸化剤
危険有害な分解生成物	: データなし

11. 有害性情報

2-エチルヘキシルアルコール	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50 値として、2,053 mg/kg、3,200 mg/kg、3,250mg/kg、3,730 mg/kg、3,200-6,400mg/kg、2,049-7,000 mg/kg (JECFA FAS32 (1993)、DFGOT vol.20 (2003)、PATTY (6th, 2012)) の 6 件の報告があり、うち 4 件が該当する区分外 (国連分類基準の区分 5) とした。
急性毒性 (経皮)	ラットの LD50 値として、> 2,000 mg/kg、> 3,000 mg/kg (DFGOT vol.20 (2003)) の報告、及びウサギの LD50 値として、1,986 mg/kg、> 2,000 mg/kg、> 2,600 mg/kg (JECFA FAS32 (1993)、DFGOT vol.20 (2003)、PATTY (6th, 2012)) の報告があり、最多該当数の区分外とした。JECFA FAS32 (1993) のデータ及び PATTY (6th, 2012) のデータを追加し、区分を見直した。
急性毒性 (吸入: 気体)	GHS の定義における液体である。
急性毒性 (吸入: 蒸気)	データ不足のため分類できない。なお、ラットの蒸気吸入試験において、0.89 mg/L (4 時間) (DFGOT vol.20 (2003)、IUCLID (2000))、及び飽和蒸気 (0.953 mg/L) (8 時間) (4 時間換算値: 1.35 mg/L) (JECFA FAS32 (1993)、PATTY (6th, 2012)) で死亡例なしとの報告があるが、これらのデータのみでは LC50 値がどの区分に該当するかを特定できないため分類できない。なお、これらの値は、飽和蒸気圧濃度 0.953 mg/L の 90% より高いため、ミストを含む蒸気として mg/L を単位とする基準値を適用した。
急性毒性 (吸入: 粉末)	データ不足のため分類できない。なお、1.2 mg/L (6 時間) (4 時間換算値: 1.8 mg/L) で死亡例なしとの報告 (JECFA FAS32 (1993)、DFGOT vol.20 (2003)、PATTY (6th, 2012))、及び 5.3 mg/L (エアロゾル/蒸気混合) (4 時間) で全例死亡との報告 (DFGOT vol.20 (2003)、IUCLID (2000)) があるが、これらのデータのみでは LC50 値がどの区分に該当するかを特定できないので分類できない。なお、これらの値は、飽和蒸気圧濃度 0.953 mg/L より高いため、ミストとして mg/L を単位とする基準値を適用した。
急性毒性 (吸入: ミスト)	データなし
皮膚腐食性/刺激性	DFGOT vol.20 (2003) には、ウサギの皮膚に無希釈の試験物質を 4 時間適用した試験 (OECD TG 404) で、紅斑、浮腫及び癬痕形成を伴う重度の刺激性を示し、皮膚刺激指数は 6.75/8.0 との報告や、ウサギを用いた試験で 20 時間閉塞ばく露により、24 時間後に軽度の紅斑と浮腫形成、8 日後に顕著な落屑がみられたとの報告がある。以上の情報に基づき、区分 2 とした。
眼に対する重篤な損傷又は刺激性	DFGOT vol.20 (2003) には、ウサギの眼に無希釈の試験物質 0.1 mL を適用した試験 (OECD TG 405) で、角膜、虹彩及び結膜に中等度～重度の刺激性を示し、眼刺激指数は 28.59/110 との報告がある。また ECETOC TR48 (1998) には、無希釈の試験物質 0.1 mL をウサギの眼の結膜嚢に適用した試験で、24 時間に角膜混濁、虹彩炎、結膜の発赤と浮腫がみられ、眼刺激指数 (MMAS) は 51.3/110 であり、7 日～14 日後に回復したとの報告がある。以上の情報に基づき区分 2A とした。
呼吸器感受性	データ不足のため分類できない。
皮膚感受性	データ不足のため分類できない。なお、DFGOT vol.20 (2003) には、ボランティア 29 人に対する Kligman 法 (マキシマイゼーション法) による皮膚感受性試験で、感受性がみられ

2-エチルヘキシルアルコール	
	た人がいなかったとの報告や、製造/加工工場の産業医学部門報告で本物質は皮膚感作性物質ではないとの記述がある。
生殖細胞変異原性	ガイダンスの改訂により「区分外」が選択できなくなったため、「分類できない」とした。すなわち、in vivo では、マウスの優性致死試験で陰性、マウス骨髄細胞の小核試験、ラット骨髄細胞の染色体異常試験で陰性である(DFGOT vol.20(2003))。In vitro では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の hprt 遺伝子突然変異試験、マウスリンフォーマ試験、染色体異常試験でいずれも陰性である(DFGOT vol.20(2003)、IUCLID (2000)、JECFA(1998)、NTP DB(Access on September 2013))。
発がん性	データ不足のため分類できない。本物質に関する国際機関の発がん性分類はない。なお、雌雄のラット、マウスを用い、ラットに2年間、マウスに18ヶ月間の経口投与発がん性試験(US-TSCA ガイドライン)で、本物質は発がん性の証拠を示さないとの評価(JECFA FAS32(Access on September 2013)、DFGOT vol.20(2003)、IUCLID(2000))がある。また、吸入試験データはない。
生殖毒性	ラットの妊娠12日目に経口投与により、母動物の毒性についての報告はないが、水腎、尾の異常、四肢奇形などの奇形胎児の発生増加がみられ(DFGOT vol.20(2003))、また、ラットの器官形成期に経口投与した発生毒性試験では、母動物に死亡、一般症状、摂餌量低下及び体重増加抑制がみられた用量で、吸収胚、着床後損失率の明らかな増加、腎盂拡張や尿管症の胎児増加に加え、骨格奇形の増加を示し、本物質は母体及び胚・胎児に毒性を生じる用量でのみ催奇形性を有すると結論付けられている(DFGOT vol.20(2003))ことから、区分2とした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	本物質は、ヒトの職業ばく露において頭痛、眩暈、疲労感、腸障害、軽度の血圧低下を起すと報告されている(PATY(6th, 2012))。動物試験ではマウス、ラット、モルモットの単回吸入投与試験(1.8 mg/L/4時間、ミスト(6h、227ppm(ばく露の換算))で、肺出血及び回復性の中樞神経抑制及び眼、鼻、喉及び呼吸経路の粘膜の刺激が認められた(JECFA FAS32(1993)、DFGOT vol.20(2003))との報告に基づき区分2(呼吸器)、区分3(麻酔作用)とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	DFGOT vol. 20(2003)、PATY(6th, 2012)及びJECFA FAS 32(1996)の記述より、ラットの13週間及び2年間強制経口投与又は13週間混餌投与試験並びにマウスの18ヶ月間強制経口投与試験のいずれの試験においても、区分2までの用量範囲内で毒性影響はみられず、区分2を超える用量では肝臓(重量増加、ペルオキシゾーム増殖など)、腎臓(皮質変性)、前胃(上皮過形成)がみられた。一方、ラットに本物質蒸気を90日間吸入ばく露した試験では、最高濃度(120 ppm; 0.65 mg/L)まで毒性影響は認められなかったが、試験濃度が区分2の範囲をカバーしておらず、ガイダンス値上限での毒性影響の有無は不明であるため、分類に用いるには不十分なデータと判断された。また、分類に利用できる経皮ばく露のデータはない。以上、経口経路では区分外相当であるが、他の経路の毒性情報が不十分であり、全体としてデータ不足のため分類できないとした。
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

2-エチルヘキシルアルコール	
水生環境有害性 短期(急性)	魚類(ブルーギル)による96時間LC50 = 10 mg/L(AQUIRE, 2013)であることから、区分2とした。
水生環境有害性 長期(慢性)	信頼性のある慢性毒性データが得られていない。急速分解性があり(BOD分解度 = 99.9、79.0%(既存点検, 1977))、急性毒性は区分2であるが、生物濃縮性が低いと推測される(LogPow=2.28(IUCLID, 2000))ことから、区分外とした。
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

13. 廃棄上の注意

化学品(残余廃棄物) : 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。

汚染容器及び包装 : 容器の内容物を完全に除去してから廃棄する。
空容器は地域の条例に準拠してリサイクル、再利用または廃棄する必要がある。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上輸送(IMDG)

国連番号 (IMDG) : 非該当
正式品名 (IMDG) : 非該当
容器等級(IMDG) : 非該当
輸送危険物分類 (IMDG) : 非該当

航空輸送(IATA)

国連番号 (IATA) : 非該当
正式品名 (IATA) : 非該当
容器等級 (IATA) : 非該当
輸送危険物分類 (IATA) : 非該当

海洋汚染物質 : 非該当

国内規制

海上規制情報 : 非該当

航空規制情報 : 非該当

特別な輸送上の注意 : 運搬に際しては、容器の転倒、損傷、落下、荷崩れ等しないように積み込み、漏出のないことを確認する。

15. 適用法令

国内法令

労働安全衛生法 : 非該当

毒物及び劇物取締法 : 非該当

消防法 : 第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1)

大気汚染防止法 : 揮発性有機化合物 法第2条第4項(平成14年度VOC排出に関する調査報告)

海洋汚染防止法 : 有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1)

外国為替及び外国貿易法 : 輸出貿易管理令別表第1の16の項

化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法) : 非該当

16. その他の情報

参考文献 : 17120 の化学商品(化学工業日報社)
国際化学物質安全性カード(ICSC)
独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE)
ERG2016 版 緊急時応急措置指針(日本規格協会)

その他の情報 : この SDS は林 純薬工業株式会社の著作物です。当該製品の化学物質製品を取り扱う事業者に対して提供するものであり、安全を保証するものではありません。現時点における該当化学物質の情報を全て検証しているわけではありません。当該化学物質について常に未知の危険性が存在するという認識で、製品運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先して使用者自己の責任においてご使用下さい。当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情報を収集すると共に使用される場所・機関・国などの、法規制等については使用者自ら調査し最優先させていただきます。国または地方の規制についての調査は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処理願います。当該物質の日本語による SDS と他国言語にて翻訳された SDS が存在する場合、内容の相違があるなしに関わらず日本語で記述された文書が優先され他国言語による文書は参考文書とします。